「東京は冷たいな」
２０１２年の１１月の秋の夕暮れ、男は上京した東京駅でそうつぶやいた。
男の名前は佐崎直哉、２年前に大手鉄道会社の駅清掃員をリストラされた男だ。

この日は前日から翌日に東京で開催される同人誌イベントに参加するためにイベント前日から東京の木場にあるホテルに宿泊していたのだが、いつも寝る前に飲む薬を持ってくるのを忘れて、そのせいで、一睡もできないままでいた。

いつも飲んでる薬がこの日は忘れて飲めない、結局、一睡もできずにイベント当日を迎えた。

体のコンディションが悪く、急遽、イベントへ行かずに、大阪へ戻ることを決意した。
疲れ果てた佐崎は東京駅でフラフラになり、直鉄東京駅の職員に助けを求めた。

直鉄職員は車いすを事務室から持ってきて、佐崎は車いすに乗り、スーツケースを膝に乗せた。
直鉄東京駅の救護室に送られた佐崎、車いすを押す職員氏は、佐崎に何も問い詰めることなく車いすを押した。

そこで、１時間くらいベッドに横になって様子を見ることを救護室の職員に提案されて、１時間くらい、ベッドに横になっていた。

１時間たった、当初は持ちこたえるかもしれないと思っただが、そうはならなかった。
救護室職員「１時間経って、状態がよくないなら救急車を呼んで病院に搬送して、プロのお医者さんに診てもらった方が安心だよ！だから救急車を呼ぶね！」

救護室職員は佐崎にそう告げ、救護室から１１９番に電話を掛けた。
職員は佐崎のことを邪険に思わず、懸命にサポートしてくれた。

佐崎「とうとう俺も救急車に乗ることになったか・・・・。」

救急車に乗せられ、飯田橋にある東京直鉄病院に搬送された。
搬送先で、看護師さんに名前や住所を尋ねられて、佐崎は問いかけにはっきりと答えることが出来た。

その後、血液検査や尿検査、それにインフルエンザの検査を受けた。
検査結果を待つ間、ベッドでよこになる佐崎、佐崎の隣にも救急車で搬送された５０代くらいの男性が居た。

しばらく待った後、佐崎の診察の番になり、服を着て、ベッドを立ち、診察室へ。
佐崎を担当したのは、日直の原と言う４０代くらいの医師だった。
佐崎の検査結果は異常なし、医師から心当たりはないかと問われると。

佐崎「実は寝る前に飲む薬を持ってくるのを忘れてしまいました、それで昨日は一睡も眠れなくて・・・・。」

原「それが原因だね！ホントに、とんでもない旅行になったね！」

原や看護師の方に頭が上がらない佐崎、今日は3連休の中日、医師から、このまま入院するか、大阪へ今日中に帰れるか等を聞かれて、佐崎は大阪に帰りたいことを原に告げた、ただ、寝る前に飲む薬を飲んでいなかったので道中、不安だと言う事を訴えた。

原と話し合う佐崎、その結果。

原「一度、ご自宅に電話をさせてもらえないかな？」

診察台にある電話から自宅へ電話をかける佐崎、電話には母親が出た。
救急搬送された経緯を説明、そして原が電話に代わる。

原「東京直鉄病院、日直の原と申します。当院は直鉄職員向けの病院です。（途中割愛）できれば、新大阪駅に迎えに来ていただけたら本人も安心すると思うんですよ。」

電話をかけ終えた医師、佐崎と再度、話し合いになり。

原「デパスだけで足りるかい？」

佐崎「なんとかなりそうです。」

原「帰りの新幹線は自由席ではなくて、ちょっとお金がかかってもいいから指定席とか確実に座って帰れるようにした方がいいね。」

医師にお礼を言い、診察室から出て会計を済ませて、病院から出て徒歩でJR飯田橋駅へ向かった佐崎。

佐崎「東京は冷たいとかよく言われるけど、暖かかったな。皆さんにお世話になった」

自分自身に受けた優しさと恩に涙する佐崎、飯田橋駅から中央線の各駅停車に乗り、御茶ノ水駅で中央線の快速に乗り換えて、元の東京駅へと戻ってきた。

あいにく新幹線の指定席は満席で佐崎は医師の教えの通り、確実に座って帰れるようにグリーン車を選択した。

今日は１１月の3連休の中日、人で混雑する東京駅の東海道新幹線のきっぷ売り場付近からスーツケースを持ってホームへと入り、のぞみ号に乗車、お世話になった、直鉄職員、救急隊、東京直鉄病院の原の言葉や看護師の方に心の中で感謝して、大都会、首都東京の優しさを感じながら、佐崎を乗せたのぞみ号は東京駅を発車した。